

編集後記

『記録と史料』第25号をお届けします。今号も前号と同様、研究論文の掲載には至りませんでした。会員・読者の皆様には是非とも積極的なご協力をお願いしたいと思います。

特集は「アーカイブズの情報発信」です。知的インフラとしてのインターネットやSNSの役割が大幅に拡大している昨今、流行の技術を活用したり、既存の媒体での情報発信を進化させたりと、各館も様々な取り組みを進めています。情報技術に限らず、新たなツールの活用に着手するには色々と障壁もあったことと思います。どのように活用の道を広げていったのか、今回の報告がこれから取り組まれる各館の活動の参考になれば幸いです。

特別寄稿として、元日本経済新聞社の松岡氏に最新のアーカイブズの動向について書いていただきました。公文書管理法施行から3年あまり経ちます。現在、私たちは公「文書」という言葉にとらわれすぎ、そのためにアーカイブズの活用の道が狭められているのではないかという警鐘を鳴らしている文章です。会員各位、心して読むべきかと思います。

アーキビストの眼には広島県立文書館の水損写真・アルバム対策の手引きについて掲載しました。洗ってすすいで乾かす、という実に見えぬ作業ですが、実際の作業にあたっては画像が流れてしまったり写真が曲が

ってしまったり、意外に繊細な気遣いが必要になります。その作業に実際に取り組みされた経験を活かしたリーフレットは大変貴重なものかと思います。

メリーランド大学図書館内にあるプランゲ文庫にはGHQにより検閲された日本の雑誌が収蔵されています。世界の窓は、このコレクションの成立、概要、今後の展望について執筆していただきました。

アーカイブズ・ネットワークには今年度新たにオープンした館を中心に6機関からご報告頂きました。また書評と紹介には『アーカイブ・ボランティア』や『歴史文化を大災害から守る』など5冊を掲載しました。

阪神・淡路大震災の発生から2015年1月17日でちょうど20年。大災害発生後における歴史資料保全活動のネットワーク化からも、ちょうど20年になります。世界中のどこであっても、今後起こる災害から完全に逃れることは不可能です。災害時の資料保全活動は会員各館にも他人事ではありません。この20年間の様々な活動を参考に、災害対策を進められることを願っています。(み)

〔広報・広聴委員会〕

新藤 聡 (委員長)

相京 眞澄 (編集長)

伊藤 康 櫛原 直樹

五島 敏芳 深井 美貴

高木 秀彰 (事務局)

会誌 記録と史料 第25号 平成27年3月31日

編集： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 広報・広聴委員会
〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1 寒川文書館
電話 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

発行： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 (会長 八津川和義)
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県立文書館
電話 082-245-8444 FAX 082-245-4541

印刷： 徳島県教育印刷株式会社
〒770-0873 徳島市東沖洲2-1-13
電話 088-664-6776 FAX 088-664-6775